

カメラ まちの出来事

あらかると

広報たかはし

広報たかはし



伝統ある3高等学校が閉校

(3月1日 高梁工業・川上農業高等学校)
4日 成羽高等学校

県立高校の再編で、高梁工業・川上農業・成羽（写真）の3高等学校卒業式と閉校式が行われました。

3校は平成16年4月に再編され、高梁城南高等学校としてスタートしていますが、3年生の卒業で、伝統ある各校に幕を閉じました。

ひな人形をずらり展示

(2月21日～3月3日 有漢生涯学習センター)

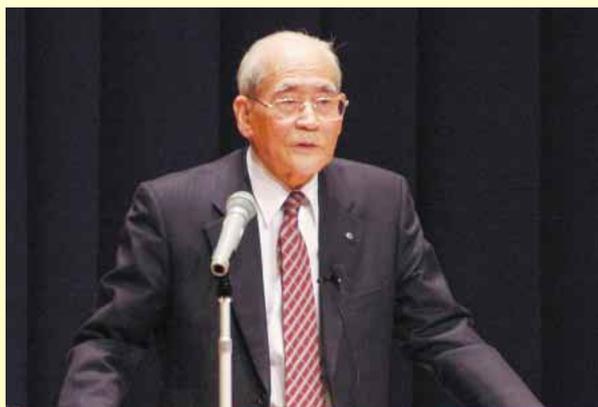
教育委員会有漢分室などの主催で、家庭で飾られなくなったひな人形などを展示する「桃の節句展」が開かれました。子どもの成長を願う大人たちの心を子どもたちに伝えようと初めての企画。有漢地域の6世帯から約20のひな人形や日本人形などが寄せられました。この日訪れた有漢学童クラブの子どもらは、色鮮やかなひな人形を楽しそうに見学していました。



教育講演会が開催

(2月25日 文化交流館)

高梁中央公民館の主催で教育講演会が開かれました。「明治以降における山田方谷の影響」と題して、順正短期大学の倉田和四生学長が講演。方谷の思想は、順正女学校創設者・福西志計子、少年非行の感化教育に尽くした留岡幸助らに深く影響を与えているという話しに、聴衆は興味深く聴き入っていました。



サンドイッチ作りで親子のふれあい

(2月26日 備中総合センター)

教育委員会備中分室と備中公民館の主催で「親子ふれあい教室」を開きました。親子40人が参加してのバルーンアートやサンドイッチ作り。父親の参加もあり、子どもらは協調性や自己主張の大切さを学びながら、楽しい休日を過ごしていました。



観光写真コンテストグランプリ決定 (3月2日 高梁国際ホテル)

(社)高梁市観光協会は「第20回備中たかはし観光写真コンテスト」の表彰式を行いました。

高梁の四季を通じた作品を募集し、64人から136点の応募がありました。

グランプリを受賞したのは、坂本小夜子さん(津川町今津)の「石の風車」=写真=でした。

「ユーモア」から始まるおもてなし (2月27日 文化交流館)

観光客を温かく迎え、高梁市のイメージアップを図ろうと、市観光研修会「おもてなしセミナー」が開かれました。落語家の雷門喜助師匠が「心にユーモアを」と題して講演。聴講した約200人は、しゅれを交えた話の中にユーモアの大切さを学習していました。



村を元気にする講演会 (2月19日 川上公民館領家分館)

教育委員会川上分室などの主催で、「村を元気にする講演会」を行いました。講演会は各地区の特色を生かしたまちづくりを図ることがねらいで、川上公民館の8地区の分館でそれぞれ実施。のべ約700人が参加しました。領家分館=写真=では、「伝えていきますか？自分の思い」と題し、FMくらしきの市民パーソナリティーの2人によるワークショップがありました。

倉敷チボリ公園で「高梁市民デー」 (3月5日 倉敷チボリ公園)

倉敷チボリ公園などの主催で「高梁芸能文化祭inチボリ」が開かれ、市の郷土芸能発表(箏曲や舞踊、コーラスなど18グループが出演)や特産物販売、観光PRが行われました。高梁市民は当日500円で入園でき、小学生以下は乗り物乗り放題でした。

市内から多くの家族連れらが入園するとともに、高梁市をPRする絶好の機会となりました。



子どもたちを夢の世界へ (3月4日 総合文化会館)

順正短期大学幼児教育科による「高梁子どもフェスティバル～みんなの夢で咲かせよう大きな花を～」が開かれ、親子連れら約1000人が、学生の演じる劇やミュージカル、ステージドリル(ステージで行うマーチング)などを楽しみました。フェスティバルは、同学科の学習発表の場を兼ねた恒例のイベントで、昭和53年から行われ今年で29回目。